

■第2回 介護保険運営協議会の記録

- ・ 日 時：令和4年12月5日（月）14時00分～
- ・ 場 所：宝塚市立中央公民館203・204学習室
- ・ 出席者：大和委員（会長）、足立委員、清水委員、丸茂委員、上田委員、篠原委員、
合田委員、繁田委員、額田委員、福本委員、浅野委員、米本委員
- ・ 欠席者：小田中委員
- ・ 次 第：1 開会
2 協議事項
第9期計画に係るアンケート調査の調査項目について
(1) 在宅要援護者需要調査
(2) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
(3) 在宅介護実態調査
(4) 介護サービス提供事業所調査
(5) サービス付き高齢者向け住宅及び住宅型有料老人ホーム実態調査
3 その他
(1) 今後の開催日程 令和5年5月頃
(2) 前回議事録（第9期第1回介護保険運営協議会の記録）
- ・ 会議の経過
 - 配布資料の確認
 - 委員（交代）紹介（新委員：浅野委員）
 - 会議の成立について報告（委員12名中11名出席により会議が成立している）
 - 傍聴希望者なし

第9期計画に係るアンケート調査の調査項目について

【資料1説明】

（委員）

- ・ 1番目の在宅要援護者需要調査と3番目の在宅介護実態調査の対象だが、在宅要援護者需要者調査は要支援、要介護認定者であり何らかのサービスの利用者で、3つ目も一番上の利用者のうちということか。数字が違うのはなぜか。

（事務局）

- ・ 在宅介護実態調査が主たる介護者の介護離職などを防止するような目的でするものであり、在宅で要介護1以上や要支援の方も含まれるので、回答されるときに返していただける数が少なくなるのではないかという見込みに立っている。

(委員)

- ・対象者の数ではなく見込みの数なのか。

(事務局)

対象者の中で何通送るかという数字である。

(委員)

- ・対象者は当然、一番上が多く、その中の一部が3番目の調査対象者ということか。

(事務局)

- ・一番目が圧倒的に多く、一番目の中の方からさらに更新申請がこの時期にあたる方になる。

(委員)

- ・一番上もその対象者が何千人という中で730に絞るということか。

(事務局)

- ・そのとおりである。回答率を考えたときに必要数が確保できるようにということで逆算した。

(委員)

- ・有効数を確保するという視点で回答があったので質問したいが、回収率は郵送とメールでどのくらい違うのか。今回、在宅介護実態調査をあえて聞き取りからメールではなく郵送にしたという経緯はどうなっているか。

(事務局)

- ・メールで送るには相手のメールアドレスが必要になってくる、事業所は把握しているが一般の方はメールアドレスが分からないので郵送になる。国勢調査にあるようなQRコードでインターネット上で回答するというのも検討したが、設問数が多く、高齢の方がインターネットで答えていくには、途中で止めたりできるような紙の方が答えていただけるのではないかと考えて郵送にした。

(委員)

- ・回収率だが、数ではなく市内の対象の高齢者に対して何%をデータとして入手するのか、それ次第では宝塚市全体の意見とは言い難いのではないかと思う。最初から出す枚数が少ないと回収率がなお深刻な問題になってくるのではないか。

(事務局)

- ・標本サイズを決めるときに、これまで大体6割を切る回答率であったので、例えば1万の母集団であれば370位集めると信頼区間の幅の中に0.05位におさまるということがあり、他のものは決めているが、在宅介護実態調査は今まで調査員による聞き取りで、ほぼ100%の回収率だったが、初めて郵送になり、どれ位答えていただけるか読めないということもあり、かなり多めに送るようにしている。今回、回収率が高いということであれば次回はもう少しそれに合わせて標本数は変えたいと考えている。

(委員)

- ・1,100通送付して何%回収できたらクリアということか。

(事務局)

- ・前回と同じ620位。

(委員)

- ・6割位ということか。

(事務局)

- ・前回と同じ位の数が返ってくるようにということで6割弱位返していただいたら600位にならないかというところで設定した。

(委員)

- ・今日の委員会でアンケート調査の内容について説明していただき、これについて我々委員が意見ということは中身を変更することはあり得るのか。

(会長)

- ・国の調査はこちらで触れないが、市独自のものであれば検討して変更はあり得る。

(委員)

- ・この案について専門委員会は通っているのか。専門委員会で意見が出て、一部修正もされているのか。

(事務局)

- ・専門員会では承認をいただき、一部修正もしている。

(会長)

- ・後で詳しく説明いただくが、それぞれの設問の横に修正案とか、削除した理由とか、専門委員会から出た案で修正しているものもある。

(委員)

- ・今日の委員会で出た意見はまた修正する可能性は残しているということか。

(会長)

- ・そうである。

(1) 在宅要援護者需要調査

【資料2説明】

(委員)

- ・新しく追加したものとして問22にある訪問型サービスAだが、家事や掃除についてはなるべく利用料金の安いこのサービスを使ってほしいという趣旨だと思うが、こちらの方にうまくサービスの利用者が移行したら、どれ位の金額が浮いてくるのではないかという試算を持っているのであれば教えていただきたい。

(事務局)

- ・試算は持っていないが、報酬単価を従前相当よりも何%か低くしているので、その何%分は少なくなると思う。実際には今提供できる事業所もほとんどない状態なので、今回、一方的に利用者に周知するだけでなく、同時に一般の方がこういったサービスがあるのなら自分も仕事に就いてみようと思っていただきたい。現在は専門的な研修を受けて従前相当の訪問介護ができる有資格者が、訪問型サービスAの基準緩和の低い単価で行かないとサービスが回らない、というようなこともあるようでそれは望ましくない。こういったことを含めて利用者への周知と市民の方に講習を受けて就労していただくということを両輪でしていきたいと思っている。それが全部できて初めて給付費が少し抑えられると思う。

(委員)

- ・おっしゃるとおりだと思う。介護保険サービスを提供する側に軸足を置くのか、介護保険サービスを受けている方々の適正給付に軸足を置くかで変わってくるかと思う。文面を見る限りでは利用者に一定の適正な利用をしていただき、ある程度の介護給付を抑えましょう、そうすれば一人当たりの介護保険料が皆さんにとって負担が少なくなるという趣旨は十分見られると思うが、一方で介護保険サービスは事業者側がかなり苦しい状況に立たされているので、そこをうまく回せるようにという視点が裏にあるのだらうと分かるだけに、どう帳尻を合わせるのかと思い聞いた。

(会長)

- ・報酬単価を従前相当の何%にするのかというのは市で決められるのか、8割位にされているのか。

(事務局)

- ・市で決められるので、決めるときに阪神間で調べ、たしか尼崎市が低めに設定をして、他は全部横並びで約82%に設定したと思う。

(会長)

- ・いずれにせよ意図は分かった、それが伝わるとよいが。

(事務局)

- ・12ページの問24、自由記載欄があり、これまでは介護を受けている方、ご家族を問わず介護保険制度や高齢者保健福祉制度に関する意見をということで設問を聞いていた。自由記載はなくさないが、介護保険制度そのものというよりは宝塚市の現在の制度についての考え方を聞く設問に変えられないかと思っている。例えば宝塚市の介護保険事業とすると一般の方はイメージがわきやすいのか、宝塚市の介護保険施策、政策といった方がイメージがわきやすいのかということの意見を伺えたらと思う。

(委員)

- ・あまり難しい言葉ではなく分かりやすい言葉の方がいいと思う。年をとると難しい言葉で言われると考えるのをやめてしまうので、なるべく分かりやすい言葉で書いていただけるとありがたい。

(委員)

- ・簡単な言葉で宝塚市の介護保険の現在の状況についてどう思われるかのような、柔らかい言い方の方が意味が通じるのではないかと思う。

(委員)

- ・アンケートをとる目的だが、1つは行政に生かすものと思う。もう1つ書く側にしたら直接言えないことや、困っている市民の声を届ける大切な形式ではないかと思う。アンケートをとること自体は有効な手段だと思うが、何のためのアンケートなのかと思うことがあるので、市民に、アンケートが重要なものであることを感じてもらえるような市からのアクション、例えば広報にアンケートをとって、こういう意見があった、市としてはこういう対応をしたいと掲載するなどと、アンケートを書く方も一生懸命になるのではないかと思った。

(会長)

- ・フィードバックが欲しいということなので、それは広報等で工夫していただくということで、

設問の文言については施策や制度という単語より、もう少し簡単な文言で聞いてもらった方がいいという意見である。

(事務局)

・宝塚市の介護保険や高齢者に向けての取組について等、もう少し柔らかい言葉に変えさせていただこうと思う。

(2) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

【資料3説明】

(委員)

・サロン、ミニデイ、いきいき百歳体操に出掛けていき、高齢者がふれあいの場を自分で作り出すというのは介護予防に効果があると思うが、スポーツジム等に自分でお金を出して体を動かしているのも効果があると思う。また、サークルで社交ダンスとかたくさんあるが、これも体を動かし、音楽に体を合わせて踊る、順番を覚えるのに頭を使うとか、いろいろな効果があると思うが、こういうのを日ごろやっているかどうかということを質問項目に入れることはできるのか。一部聞いているところでは、川西はフィットネスクラブやジムをできるだけ増やすというような考え方を行政は持っていると言ったことがある。その辺、いかがか。そういう設問をしたとしたら、標本の中でどれ位の人がジムに行ったり、趣味でそういうことをやっているかというのが把握できるのか。

(会長)

・通っている中身がジムとか具体的に分かればということか。厚労省だと通いの場の中に運動のもの全部含めてということだが、詳細が知りたいということか。

(委員)

・分かりやすく、そういうことが聞けたらいいのではないかと思うが。

(事務局)

・今回のニーズ調査票は変更がある新旧対照表だけを付けているが、国の必須項目「地域での活動について」という中に、以下のようなグループ等にどのような頻度で、どれくらい参加されているかというのがあり、項目としてはボランティア、スポーツ関係、趣味関係、学習・教養サークル、介護予防のための通いの場、老人クラブ、町内会・自治会、収入のある仕事を週何回以上としているか聞くように設定している。

・地域包括ケア推進プラン 35 ページに社会活動への参加状況ということで数値を挙げている。

(3) 在宅介護実態調査

【資料4説明】

(会長)

・これは経年で国がしていくものであるので、こちらとしてはそのまま実施するということで

確認をいただければと思う。

(4) 介護サービス提供事業所調査

【資料5説明】

(5) サービス付き高齢者向け住宅及び住宅型有料老人ホーム実態調査

【資料6説明】

(委員)

・介護保険事業者協会は今、宝塚市内で法人数約120、事業所数約300あるが、2カ月に1回、運営委員会を開いており、市の介護保険課や高齢福祉課、関連のところに来ていただいている。アンケートについては、事業者によっては必要と思う内容、必要ないと思う内容、もっと深く聞きたい内容とかいろいろあると思うので、その辺についてはそういった会議の場でもう一度吸い上げをして整合していけると思う。これを見て、もっとこんなことを聞いてみてはとかいろいろあると思うが、逆にそういうものがあれば市に言っていただけると会議の場で事業者側の意見を出し合い、調整していけると思う。私はこれでいいかとは思っている。

(会長)

・既にもう打ち合わせをしていただいているということによろしいか。

(委員)

・はい

(委員)

・事業所向けはアンケートの要素ももちろん入っているが、アンケートというよりは調査票。調査票の内容はアンケートで調査する以外に市にデータはないのか。施設が回答を記入するのに半日かかるようなものはどうなのかという気がした。利用者数や職員数は、ここで求めているかといけないのか。

(事務局)

・宝塚市に限ると利用者数や給付費のデータがあるが、他市保険者分が分からないというのがある。特養の待機者についてもそうだが、宝塚市の方については全部報告いただくのでデータを持っているが、宝塚市以外の広域型の事業所の常態的な利用というのは、宝塚市はデータを持っていないというのがある。従業員数はどこかに掲載されているのか。

(委員)

・毎年、県の調査でも答えさせていただいている。

(委員)

・施設側にしたら、これを書く手間は大丈夫か。

(委員)

・現場の事務員は大変だと思う。施設の場合は厚労省や大学からアンケート等来ているので、全部回答はできていないが、いろいろなところから来た同じようなアンケートに回答している

ケースがある。

(事務局)

・事前に介護保険事業者協会、会長や副会長等に意見も聞きながらであったが、私どもも分かる範囲では調べたがデータの有無が分からなかった。調査票を受け取られて、これはどこどこに回答していてデータがあるということがあれば、該当する設問については、省かせていただけるので言っていたらと思う。ただ、全ての事業所に聞くので社会福祉施設だけが答えていて、他は答えていないとなると時期等もずれるので、それについては申し訳ないが協力いただけたらと思っている。

(委員)

従業員数とかは毎年、県の監査とかいろいろあるので、そういうところで回答しているかもしれない。

(委員)

・アンケートも含めて個別に不足数とかを聞いたりしているので必要なと思うが、すごい手間がかかる調査票ではないかと。

(事務局)

・同じ質問に答えているというのがあれば教えていただけると、それは省かせていただく。

(委員)

・施設であれば職員の出入りは毎月把握して、当然、県に監査のときに報告しないといけないので資料としては置いてある。

(委員)

・その点については専門委員でも議論になったと思う。今まで郵送という形をとっていて、今回からデータ化するという事なので今回に限っては、私はやむを得ないと思う。一旦データを入力し、次年度以降は前年度を修正する形でやるというやり方もあるかと思う。例えば前年度のデータを渡して加筆・修正をお願いする形であれば、安定的な運営に必要な職員数等、変わらない可能性が高いものは改めて入力する必要はないので、この辺りが今回データ化することによって次年度以降、労力が減るような形でエクセルシートをまとめていただきたいというのは要望としてお願いしたい。

・なおかつ、今言われたように都道府県にはデータがあるが、本市ではどうなのか。一度、どこまで可能かわからないが、事業所はどういう調査を求められているのか整理していただいたら、そこで重複するものが目に見えて分かると思う。毎年、3年に1回、5年に1回という形で出てくるので、この先も同じようなことをする可能性が高いならば、ぜひとも今回を機に事業所に一旦ヒアリングしていただきたいと思う。2点要望である。

(事務局)

・今回お聞きするときに似たようなことを答えている調査がないかを聞き、3年後に調査するときに重複しているようなら省くような形で整理したい。

(会長)

・サ高住、有料の実態調査は前回から設問にほぼ変更ないということだが、前回の回収率は。

(事務局)

・前はほぼ100、対象が少ないので催促の電話をかけるので回収率はいい。いろいろなサ高住、

有料があるのでお願いしてもというの考えられるが、返ってこなければ電話をして何回か催促したいと思っている。

(会長)

・中身についてはよろしいか。ご質問、ご意見等が特になければ全般でも結構なので、サ高住、有料の調査以外に言い忘れたこと、あるいはこの際にアンケートの前に何かご意見があればお伺いしたい。

(委員)

・アンケートと関係ないがお伺いしたい。地域のサロンに知り合いが入りたいので近所の通っている方に紹介してほしいと言ったが紹介をしてもらえないと。サロンに入る方法とは。

(事務局)

・サロンも 200 近くあり、個別に入り方や要件が変わってくると思うので、終わってからまた相談させていただいてよろしいか。基本的には高齢福祉課等に問い合わせをいただいたり、サロンなら社会福祉協議会に問い合わせいただくと場所等は分かると思うが、細かなところになると個別案件になってくるので後で話を聞かせていただけたらと思う。

【今後の委員会開催予定の調整】

・第3回は、来年5月頃を予定。

(以上)